

建設業界を取り巻く環境として、建設従事者数の減少や働き方改革における残業規制など、**従来よりも業務の効率化が求められている。**

効率化を図る手段として、昨今はパソコンやタブレット、スマートフォンなどのデバイスとインターネットが常に接続できる環境が整っており、これらを活用した様々な取り組みが各社で行われている。

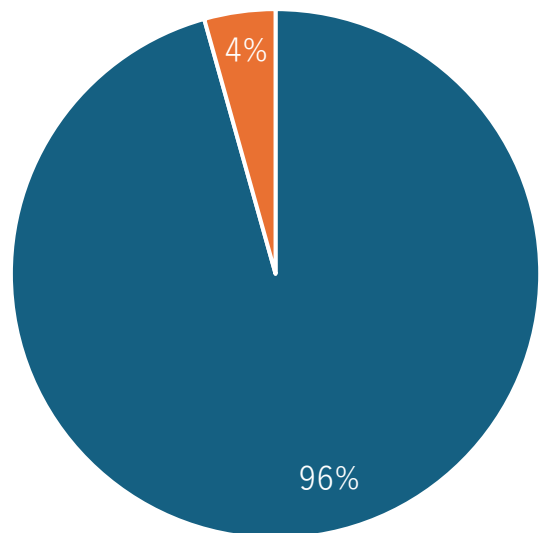
オンラインストレージサービスはインターネットに接続された端末内のデータをサーバー上に保存するものであり、インターネットが接続できる端末があれば、**時間や場所を問わずファイルへアクセスすることができる。**

その特性を生かして、ファイルを他者と共有する機能も持ち合わせており、データの受け渡しや1つのファイルを複数人で同時編集する機能も備えられている。

本アンケートは建設業におけるオンラインストレージサービスに関する質問を行い、**建設業におけるオンラインストレージサービスの利用状況について調査を行った。**

- 回答社数:23社
- 設問数:10問
- 設問内容:導入状況、利用サービス、共有しているデータ種、サービス利用に至ったきっかけ、運用方法のルール、メリット、デメリット

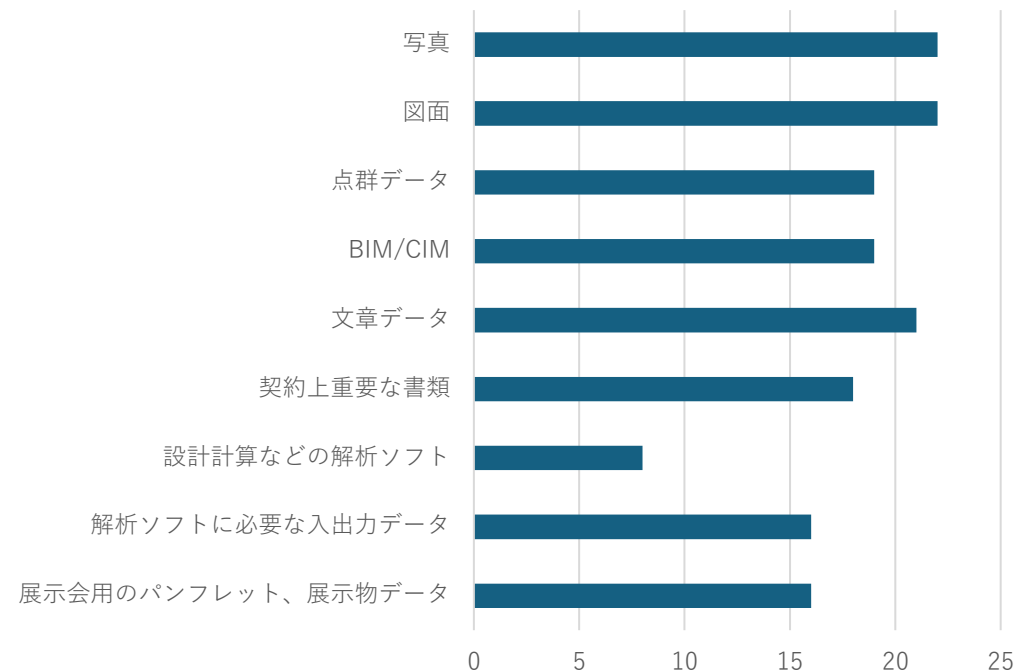
オンラインストレージサービスの導入率



■ 全社利用 ■ 本支店の内勤部署のみ

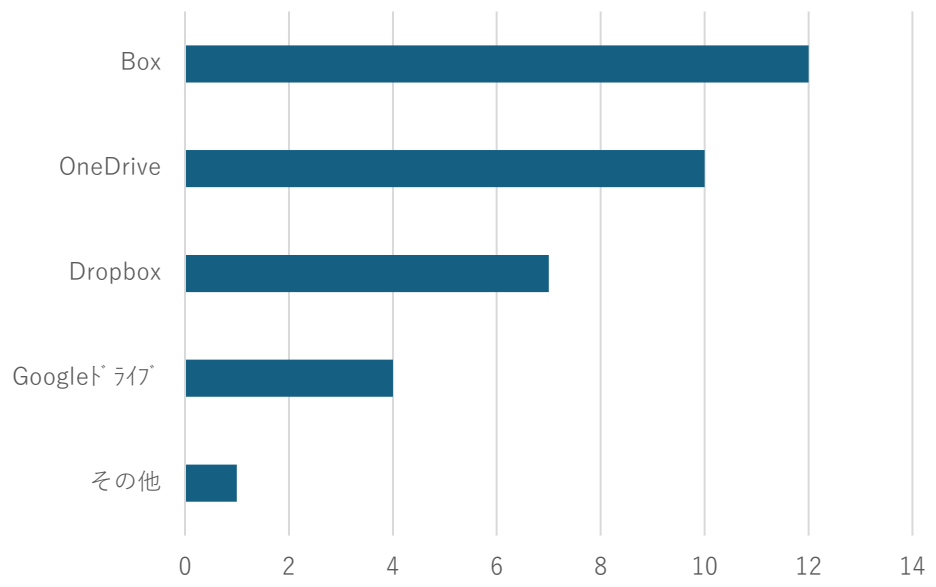
回答した全社でオンラインストレージサービスを導入。内96%の会社で全社導入しており、内勤、外勤問わず、広く活用されていることが分かる

共有しているデータの種類 ※複数回答



写真や図面などをはじめ、比較的データ容量が大きいと思われるBIM/CIMデータや点群データも共有していることが確認できた。

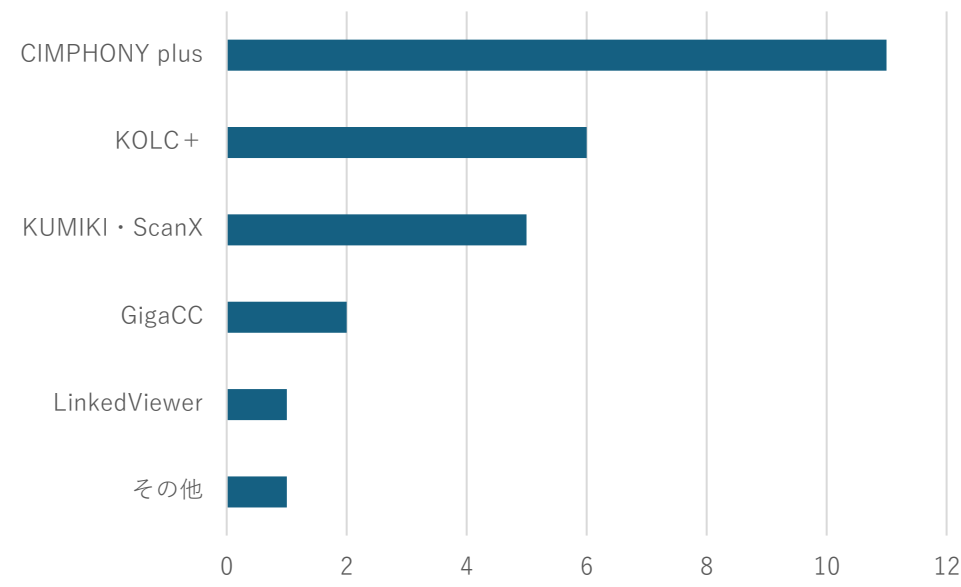
利用しているオンラインストレージサービス (コンシューマー向けのサービス)



BOX、OneDrive、Dropbox、Googleドライブの4サービスが大半を占め、**データの種類によっては、複数のサービスを活用**している会社もあった。

その他回答:Autodesk Docs

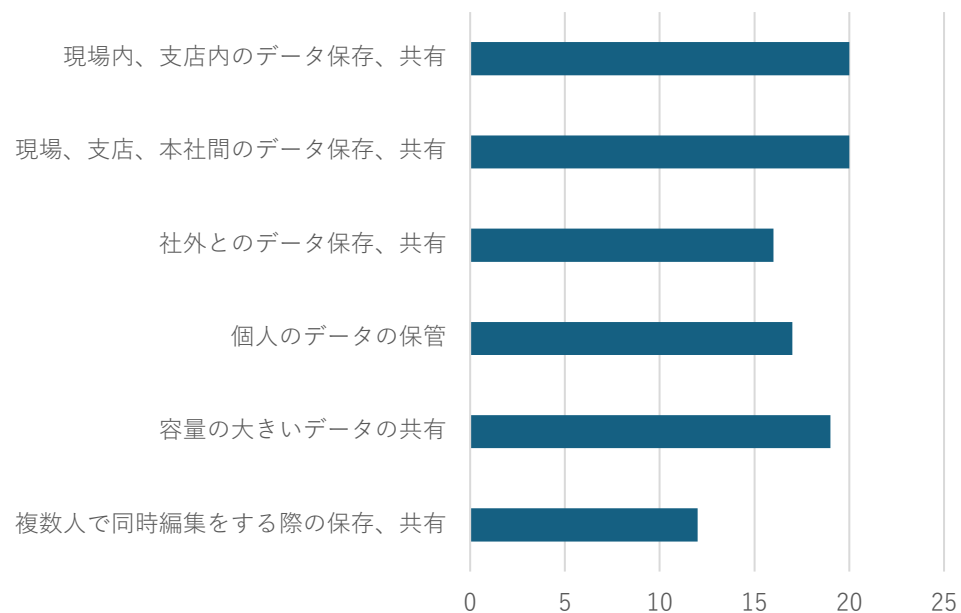
利用しているオンラインストレージサービス (図面や点群、BIM・CIM等に特化したサービス)



CIMPHONY plusが一番多く使われており、KOLC+が次いで多い結果となった。

その他回答:KOMATSU Dashboard/国総研DXデータセンター

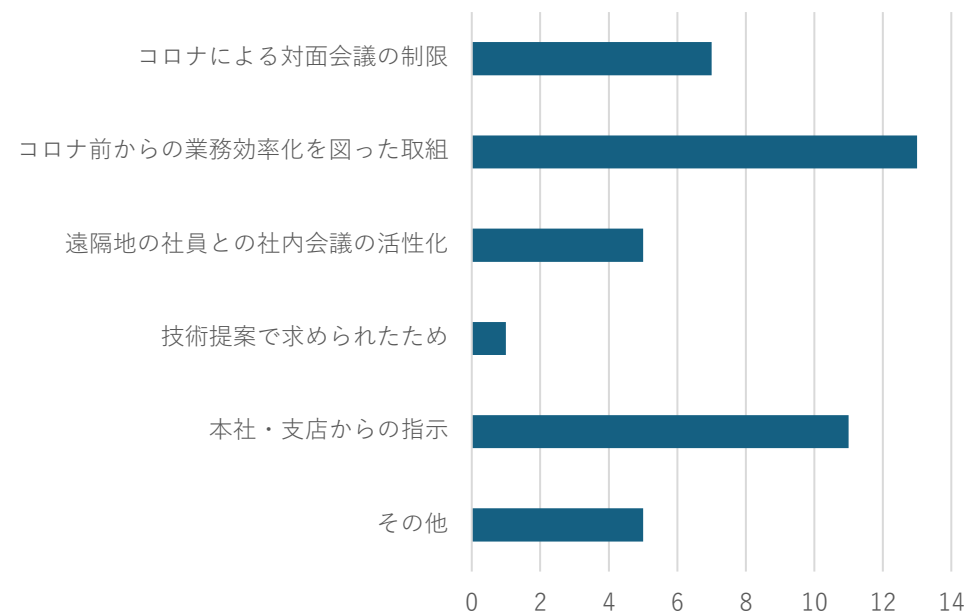
利用シーンについて ※複数回答



社内外を問わず、**データの保存と共有で利用**しているものが最も多い結果であった。

また、**複数人で同時編集する機能を活用**している事例も多く、各社サービスを活用していることがわかる。

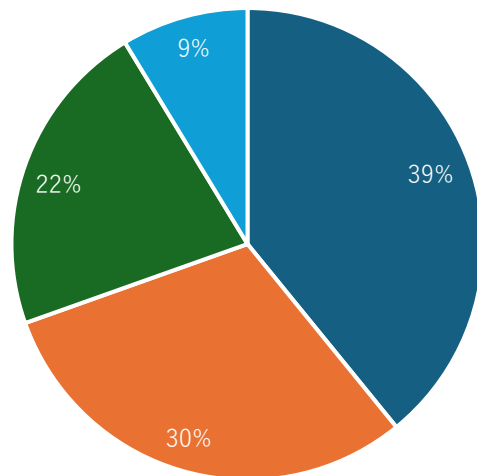
利用開始に至ったきっかけ ※複数回答



コロナによる対面の制限をきっかけとしている会社よりも、**コロナ前から取り組んでいる会社が多い**結果であった。

その他回答: 作業所内のファイル共有 / BCPやバックアップへの対策・データ共有 / 3Dcadデータの閲覧のため

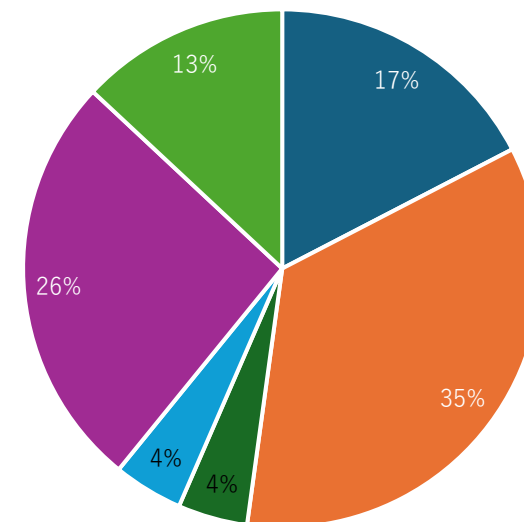
フォルダ構成のルールの有無について



- 部署、現場単位のルールがある
- 全社統一のルールがある
- ルールがない
- その他

約7割の会社でフォルダ構成に関するルールがあり、内3割の会社で全社統一のルールを定めていた。ルールがない会社も約2割あり、運用方法に関しては各社違いが出る結果となった。

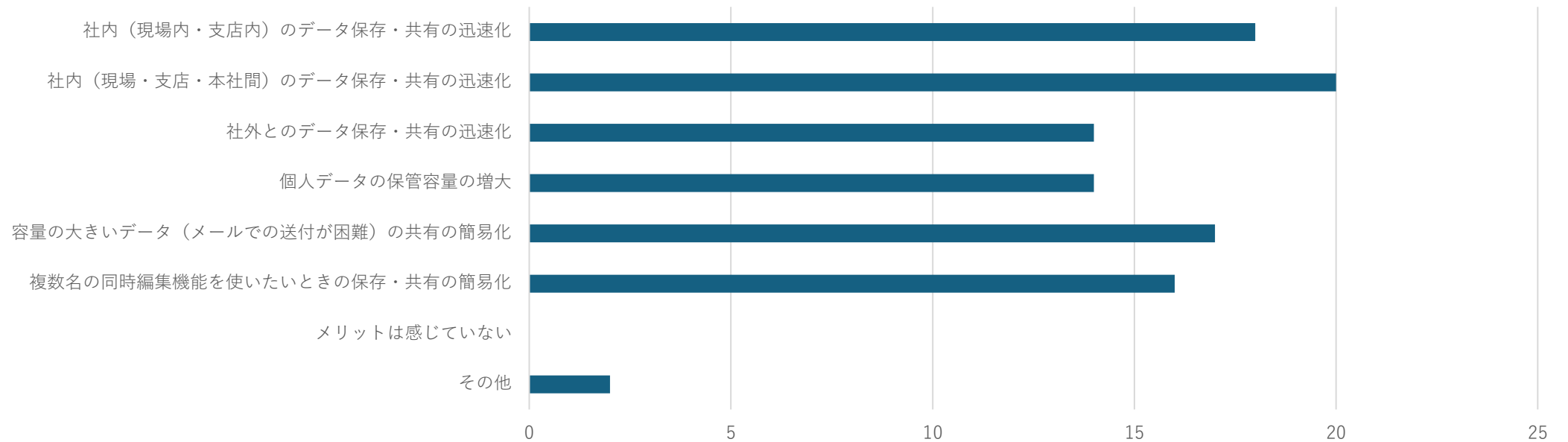
サービス利用で得られた業務改善効果



- 1割～2割程度
- 2割～3割程度
- 3割～4割程度
- 4割～5割程度
- 5割以上
- 業務効率化は感じられない

約9割の会社で効果を実感しており、内26%の会社では5割以上の業務改善効果を感じている。一方で、約13%の会社で効果を感じていないと回答しており、**効果の感じ方は各社で差が出る結果となった。**

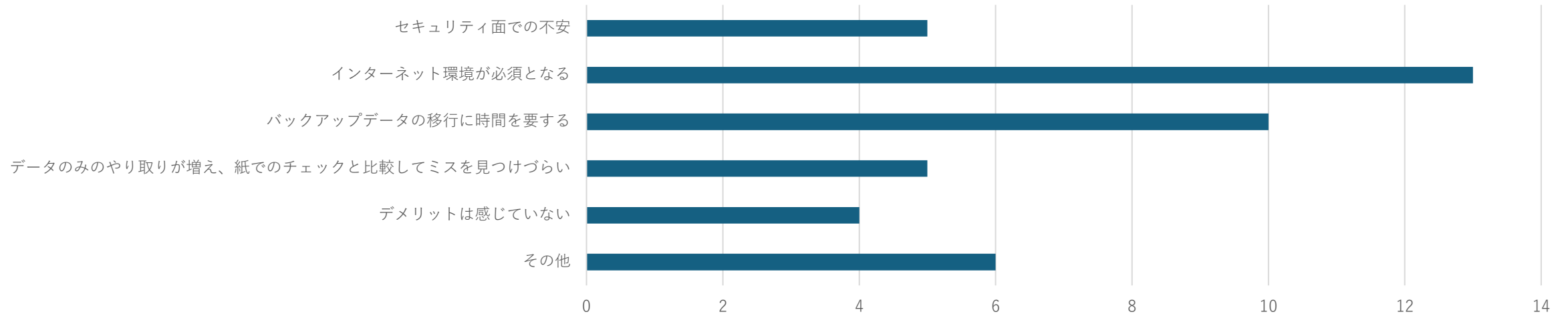
オンラインストレージサービスで感じたメリットについて



オンラインストレージサービスの特性である場所や時間を問わず、データを保存共有が迅速に行える点をメリットとして多く挙げられた。またサービス利用により、個人で管理するデータ容量が多くなる点もメリットとして挙げられているほか、複数名の同時編集機能や容量の大きいデータの共有する際にメリットを感じている結果となった。

その他回答:現場、外出先からのからのデータアクセス/プレゼンテーション活用

オンラインストレージサービスで感じたデメリットについて



オンラインストレージサービスはクラウド上にデータを保存するため、**データにアクセスするにはインターネット接続が必要**であり、この点に関するデメリットが多く挙げられている。

具体的には、サービス利用のために常時ネット接続が必須であること、データを社外のクラウド上に保存することによるセキュリティ面での不安、さらにデータ移行に時間を要する点などが指摘されている。

また、サービス利用に伴ってペーパーレス化を進めた結果、**紙でのチェックと比べてミスを発見しにくくなった**という意見も見られた。

その他回答:ファイル更新の遅延/通信環境によるアクセスの遅さ/高速インターネット回線のない拠点では導入が難しい/処理の能力がPCのスペックに依存される/ストレージ内のデータ整理がされていない懸念がある/ファイルの編集を行う際にローカルでの編集作業と比較して動作が重い

オンラインストレージサービスの利用状況に関するアンケート調査の結果、以下のことが明らかとなった

- 導入率は100%で、建設業界で広く使われている
- 写真や書類をはじめ、BIM/CIMデータや点群データなど、様々なデータを共有している
- データの保存や共有を目的とした利用が多く、メリットと感じている
- 業務効率化を目的に利用開始した会社が多い
- 多くの会社でフォルダ構成のルールが定められている
- オンラインストレージサービスの利用により、業務効率化を感じている会社が9割近くにのぼる
- サービス利用で必須となるインターネットに起因するデメリットが多く挙げられている